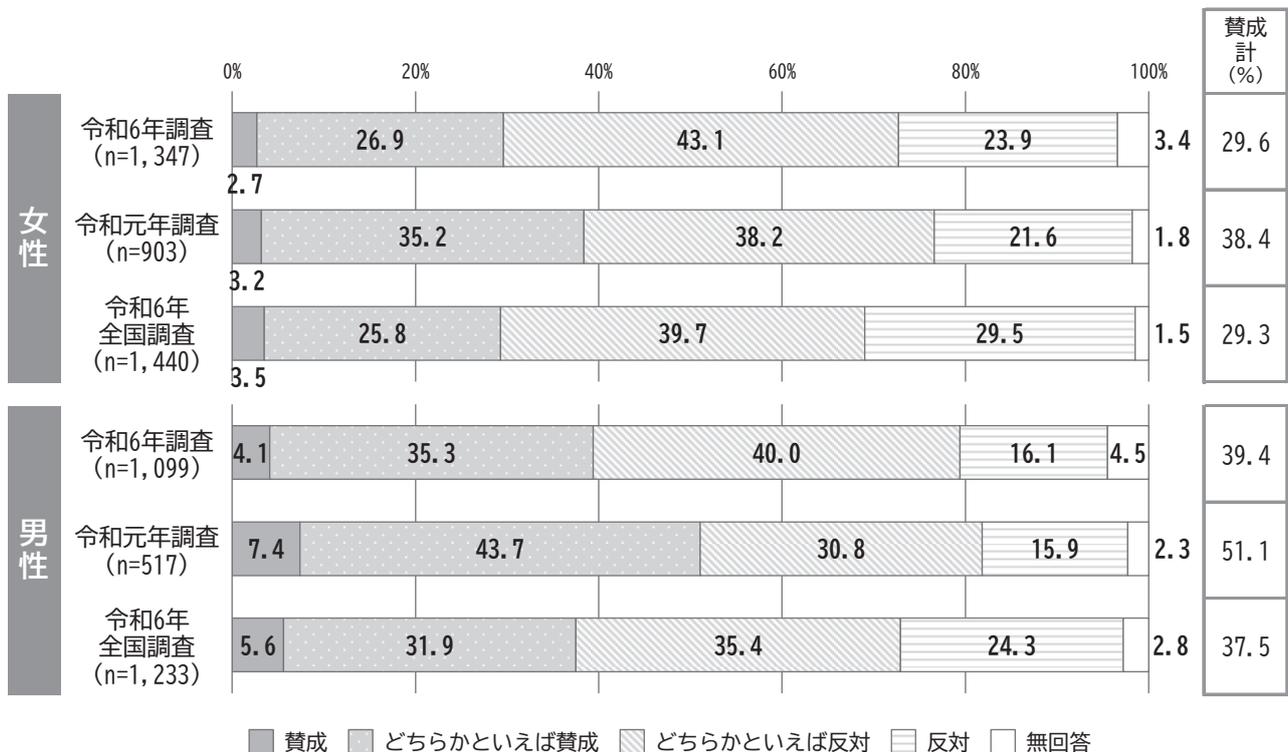


4. 地域や家庭における「性的役割意識」等について

(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方

問 4-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

- 女性では、「賛成」(2.7%)、「どちらかといえば賛成」(26.9%)をあわせた賛成計は29.6%である。賛成計は令和元年調査と比較すると5ポイント以上低下している。また、令和6年全国調査と比較して大きな差はみられない。
- 男性では、「賛成」(4.1%)、「どちらかといえば賛成」(35.3%)をあわせた賛成計は39.4%である。賛成計は令和元年調査と比較すると10ポイント以上低下している。賛成計は令和6年全国調査と比較するとわずかながら上回っているものの、「賛成」の割合はわずかながら下回っている。
- 性別に比較すると男性の賛成計は女性に比べて5ポイント以上高い。



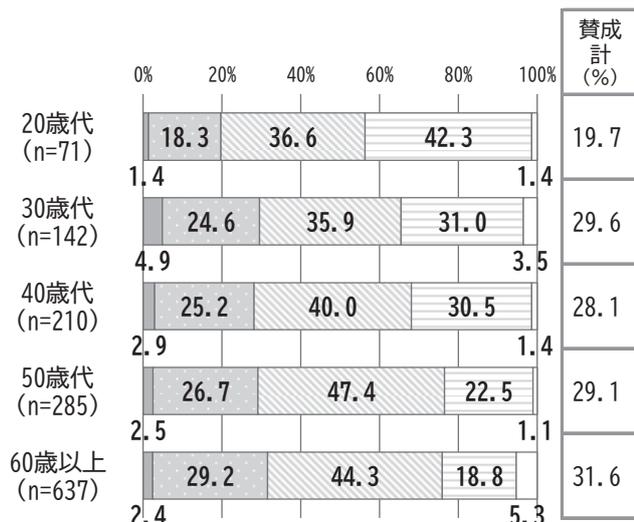
※令和6年全国調査は「男女共同参画社会に関する世論調査」(内閣府)より引用

《年代》

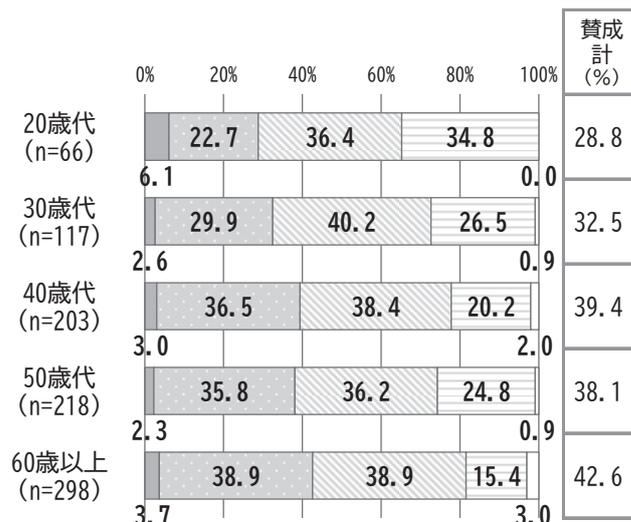
- 年代別にみると、男女ともに年代が概ね若くなるほど賛成計の割合は低くなっている。
- 性別に比較すると、すべての年代で男性の賛成計が女性を上回っているが、その差は30歳代で最も小さく、年代が若くなるほど、また年代が高くなるほどギャップが大きくなっている。
- 令和元年調査と比較すると、女性ではすべての年代で賛成計の割合は低くなっており、40歳代と60歳以上で10ポイント以上低くなっている。男性では30歳代以上で賛成計の割合は低くなっており、30歳代と50歳代以上で10ポイント以上低くなっている。20歳代の回答者数が少ないため参考ではあるが、賛成計の割合は5ポイント以上上昇している。

女 性

令和6年調査

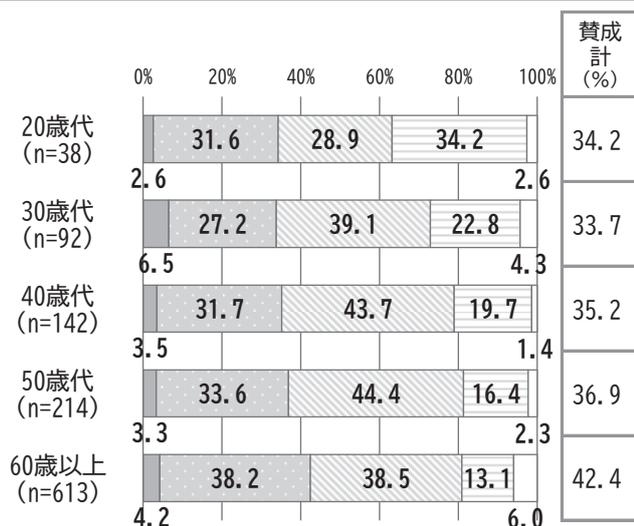


令和元年調査

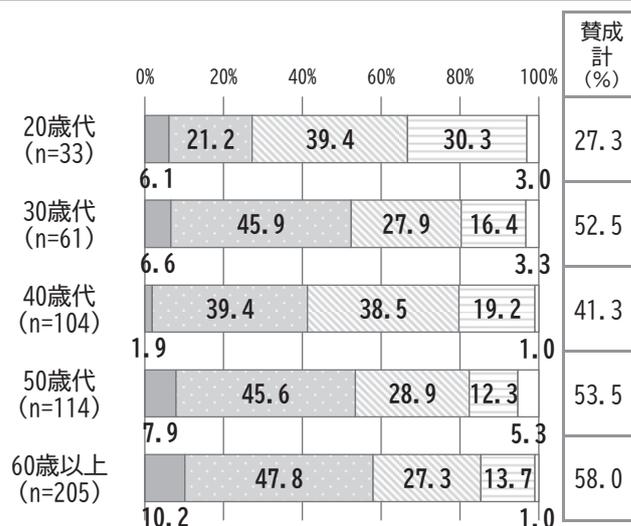


男 性

令和6年調査



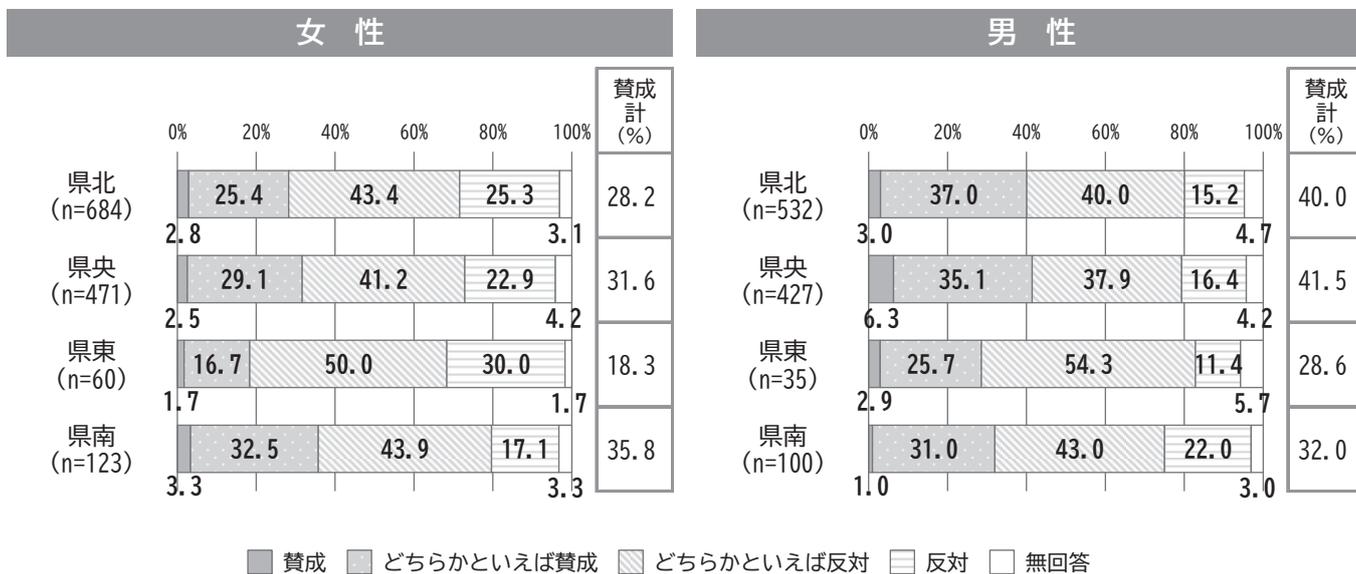
令和元年調査



■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ▨ どちらかといえば反対 □ 反対 □ 無回答

《居住エリア》

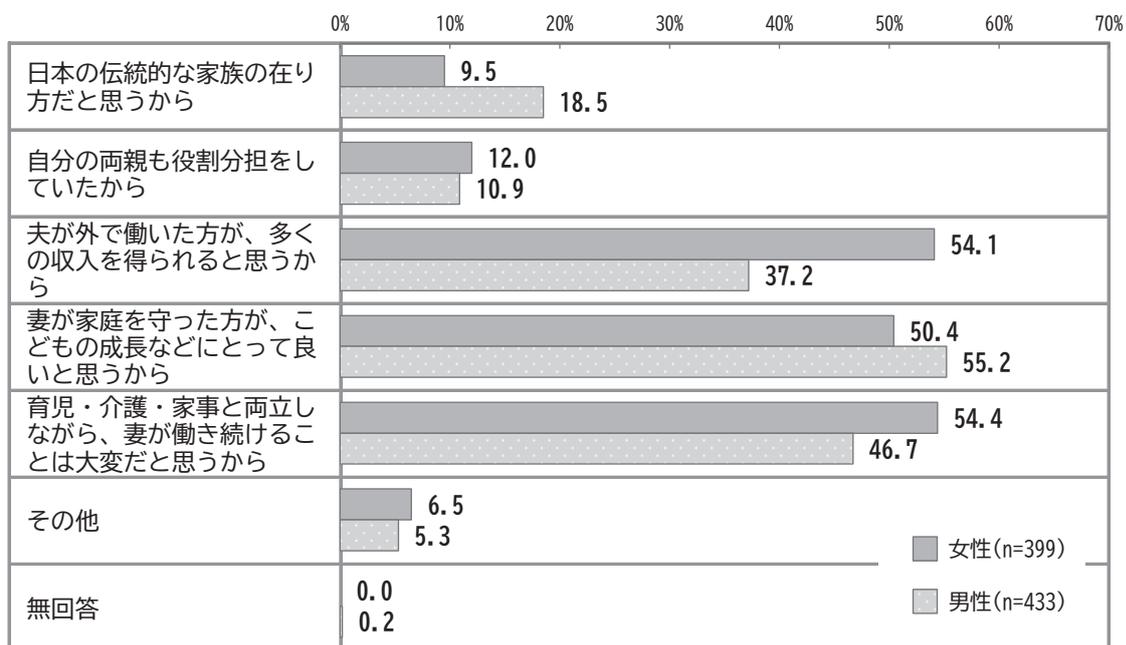
- 居住エリア別に賛成計をみると、女性では県南で35.8%と他のエリアに比べて最も高く、県央(31.6%)、県北(28.2%)、県東(18.3%)が続いている。
- 男性では県央で41.5%と他のエリアに比べて最も高く、県北(40.0%)、県南(32.0%)、県東(28.6%)が続いている。
- 性別に比較すると、県南以外のすべてのエリアで男性の賛成計の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。



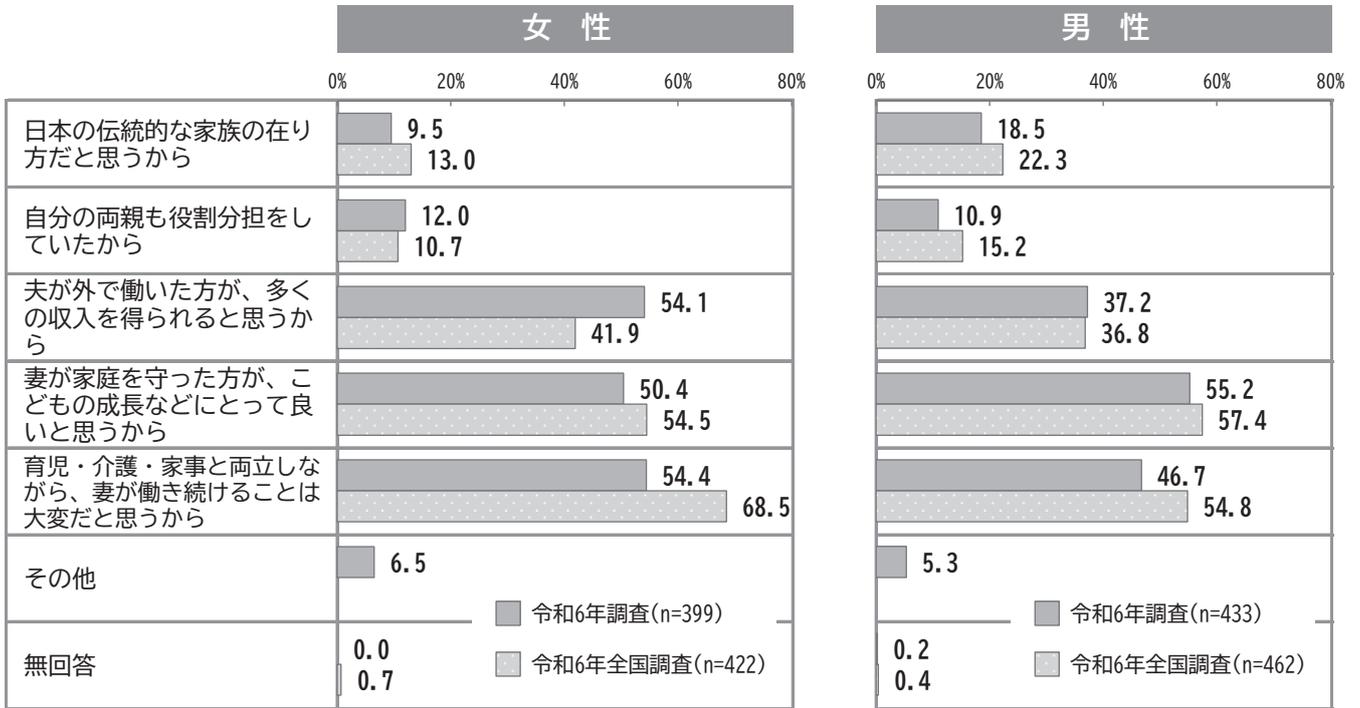
(2) 賛成を選んだ理由

問 4-2 問 4-1 で「1. 賛成」または「2. どちらかといえば賛成」と回答した方のみにお聞きします。
 賛成を選んだ理由についてお聞かせください。(〇はいくつでも)

- 女性では、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が 54.4% で最も高く、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(54.1%)、「妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」(50.4%)が続いている。
- 男性では、「妻が家庭を守った方が、こどもの成長などにとって良いと思うから」の割合が 55.2% で最も高く、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」(46.7%)、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(37.2%)が続いている。
- 性別に比較すると、女性では「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が男性に比べて 10 ポイント以上高く、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が 5 ポイント以上高い。男性では「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」の割合が女性に比べて 5 ポイント以上高い。



- 令和6年全国調査と比較すると、奈良県女性は「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が全国に比べて10ポイント以上高い。「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」は全国に比べて10ポイント以上低い。
- 奈良県男性は「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が全国に比べて5ポイント以上低い。

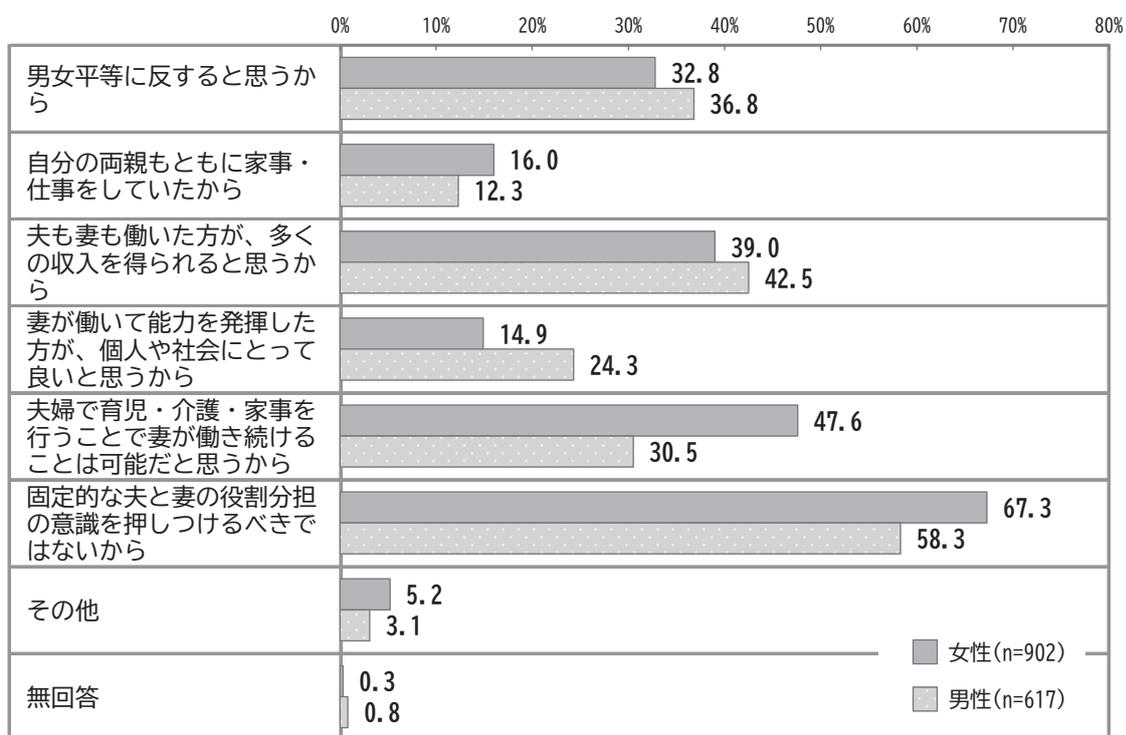


※令和6年全国調査は「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）より引用

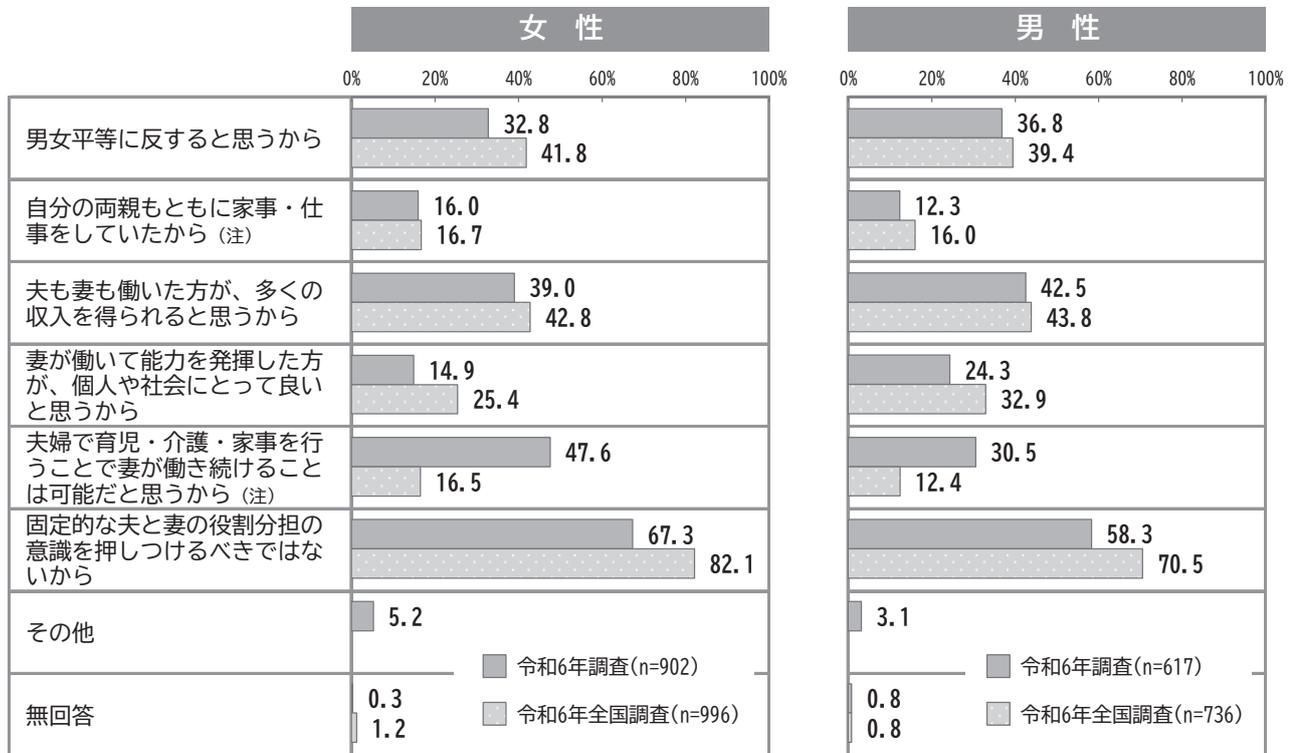
(3) 反対を選んだ理由

問 4-3 問 4-1 で「3. どちらかといえば反対」または「4. 反対」と回答した方のみにお聞きします。
 反対を選んだ理由についてお聞かせください。(〇はいくつでも)

- 女性では、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が 67.3%で最も高く、「夫婦で育児・介護・家事を行うことで妻が働き続けることは可能だと思うから」(47.6%)、「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(39.0%)が続いている。
- 男性では、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が 58.3%で最も高く、「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(42.5%)、「男女平等に反すると思うから」(36.8%)が続いている。
- 性別に比較すると、女性では「夫婦で育児・介護・家事を行うことで妻が働き続けることは可能だと思うから」の割合が男性に比べて 10 ポイント以上高く、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が 5 ポイント以上高い。男性では「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が女性に比べて 5 ポイント以上高い。



- 令和6年全国調査と比較すると、奈良県女性は「夫婦で育児・介護・家事を行うことで妻が働き続けることは可能だと思うから」の割合が全国に比べて30ポイント以上高く、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」は全国に比べて10ポイント以上低い。
- 奈良県男性は「夫婦で育児・介護・家事を行うことで妻が働き続けることは可能だと思うから」の割合が全国に比べて10ポイント以上高く、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が10ポイント以上低い。



※令和6年全国調査は「男女共同参画社会に関する世論調査」(内閣府)より引用

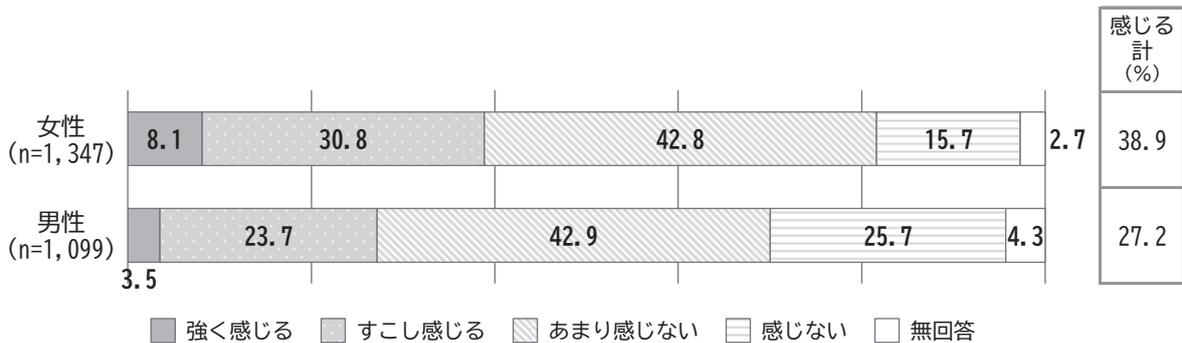
※(注)は令和6年全国調査では「自分の両親も外で働いていたから」「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから」として聴取

5. 性別による生きづらさについて

(1) 性別による生きづらさの実感度

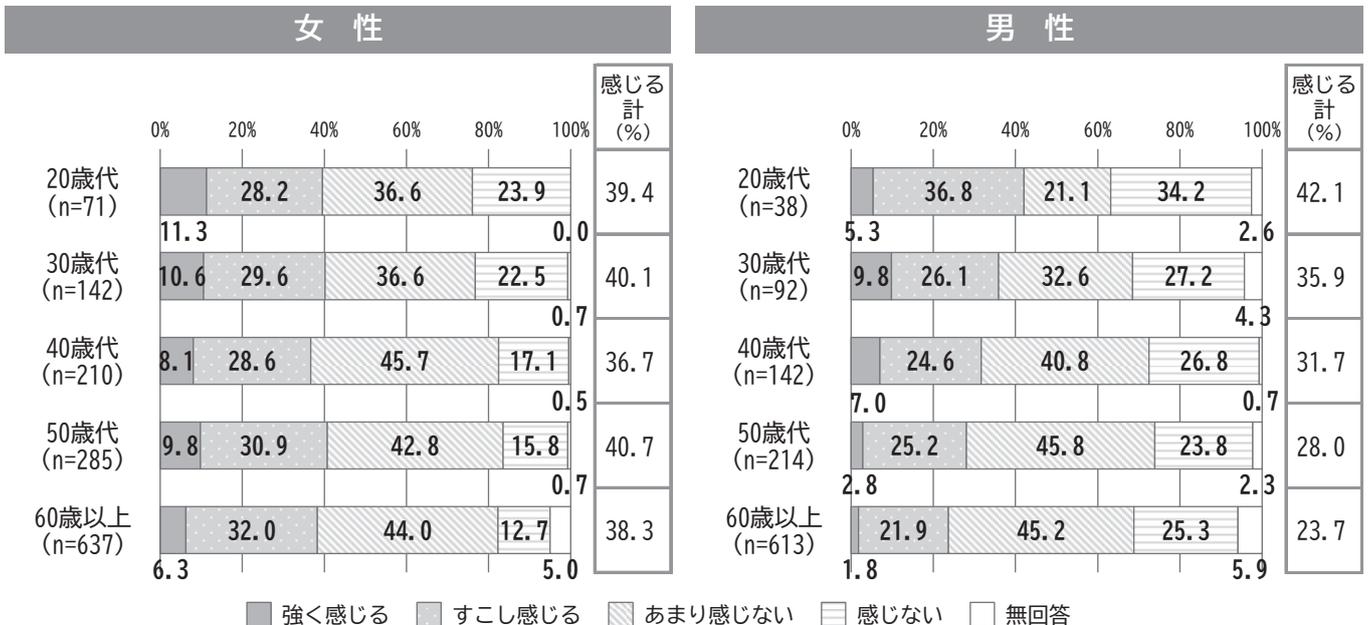
問 5-1 職場や学校、家庭などの場で「男だから」「女だから」という固定概念やプレッシャーにより生きづらさや不便さを感じることはありますか。(○は1つ)

- 女性では、「強く感じる」(8.1%)、「すこし感じる」(30.8%)をあわせた感じる計は38.9%である。
- 男性では、「強く感じる」(3.5%)、「すこし感じる」(23.7%)をあわせた感じる計は27.2%である。
- 性別に比較すると、女性の感じる計は男性に比べて10ポイント以上高い。



《年代》

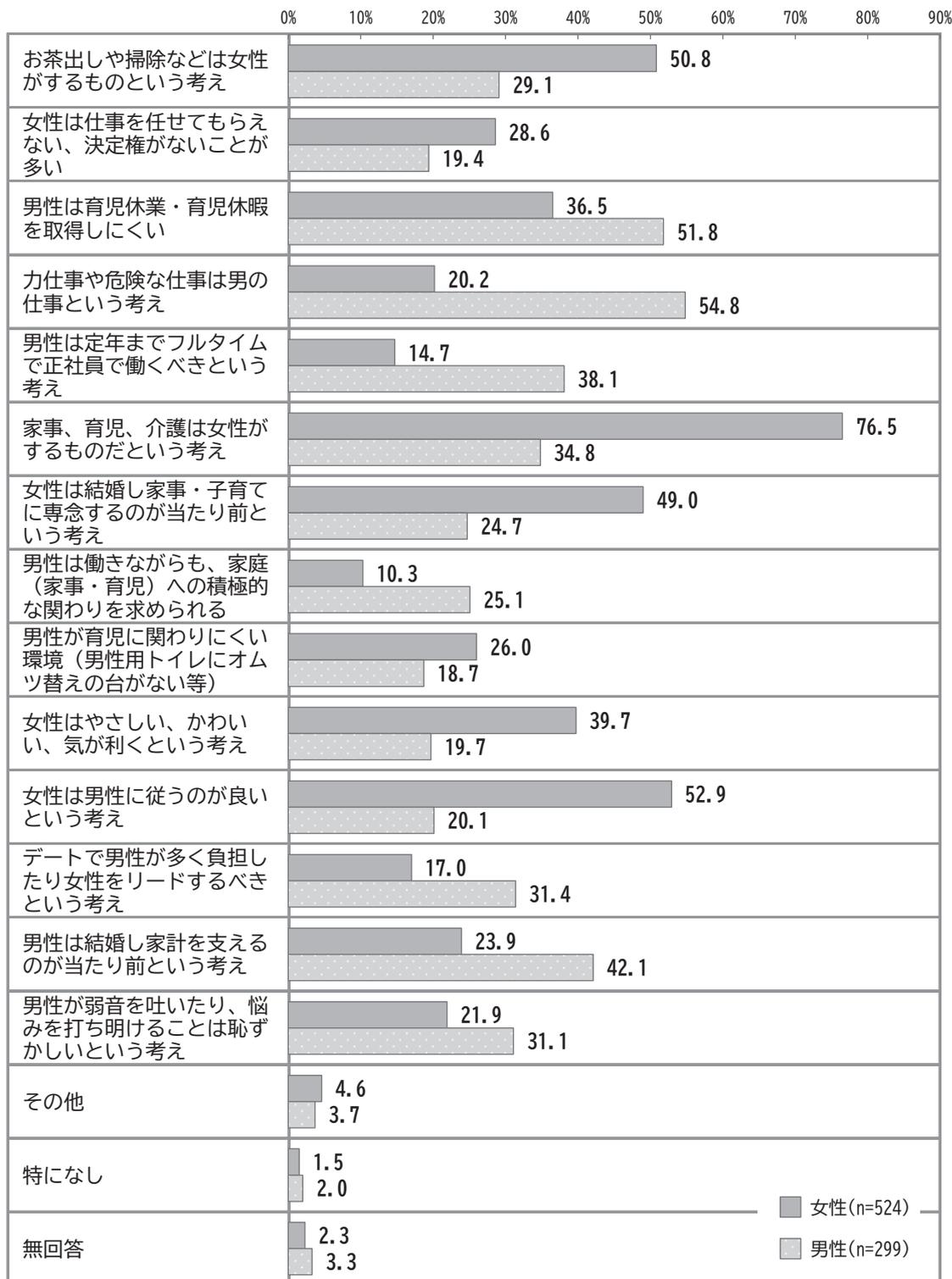
- 年代別に感じる計をみると、女性では大きな差はみられない。
- 男性では、年代が若くなるほど感じる計が高く、20歳代で42.1%、30歳代で35.9%、40歳代で31.7%、50歳代以降で2割台である。
- 性別に比較すると、20歳代では感じる計に大きな差はみられないが、年代が高くなるほど女性の感じる計が男性に比べて高くなっている。



(2) 性別による生きづらさを感じた状況

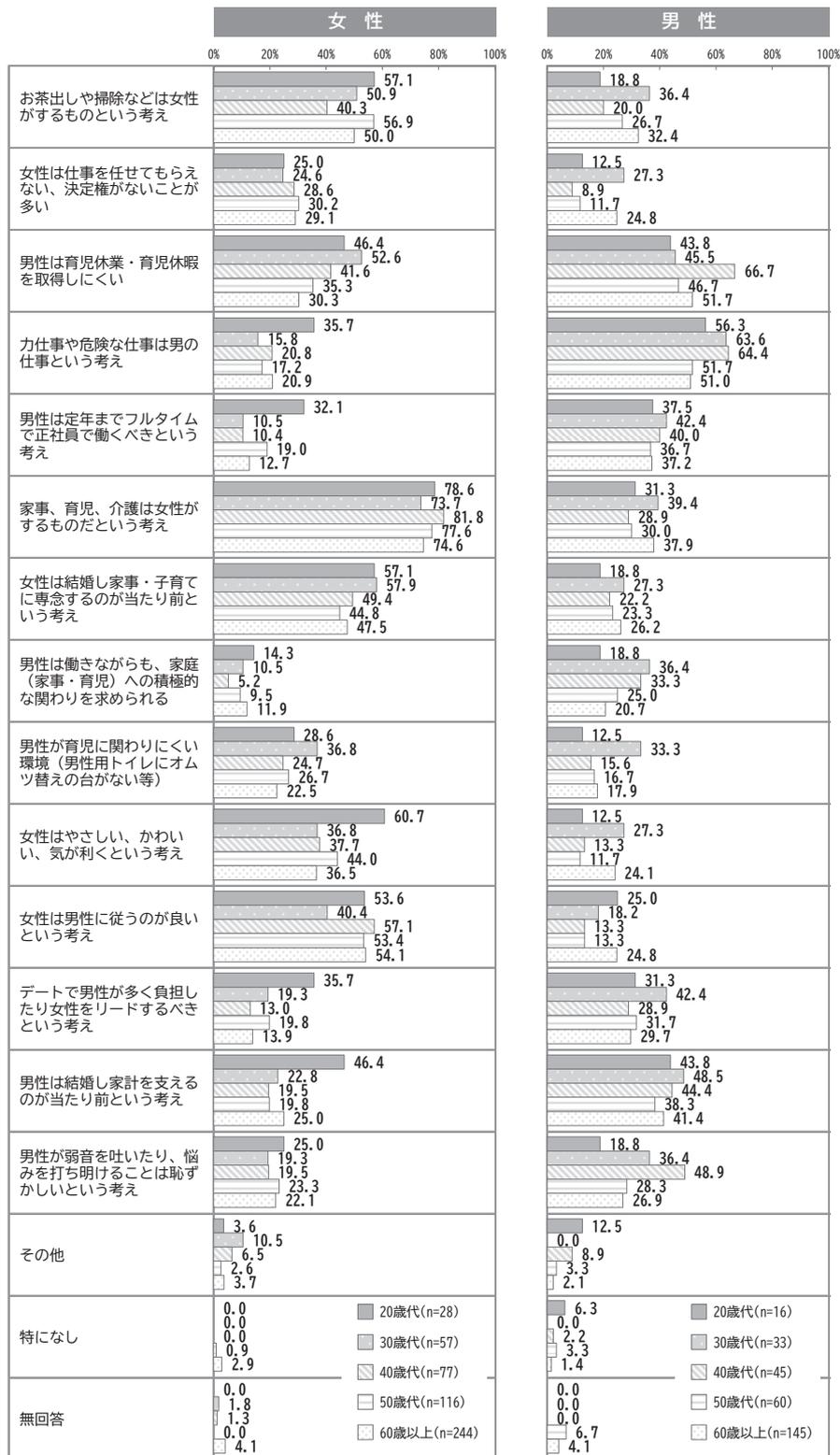
問 5-2 問 5-1 で「1. 強く感じる」または「2. すこし感じる」と回答した方のみにお聞きします。
性別による生きづらさや不便さについて、あなたが感じることもあるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

- 女性では、「家事、育児、介護は女性がするものだという考え」の割合が76.5%で最も高く、「女性は男性に従うのが良いという考え」(52.9%)、「お茶出しや掃除などは女性がするものという考え」(50.8%)が続いている。
- 男性では、「力仕事や危険な仕事は男の仕事という考え」の割合が54.8%で最も高く、「男性は育児休業・育児休暇を取得しにくい」(51.8%)、「男性は結婚し家計を支えるのが当たり前という考え」(42.1%)が続いている。



《年代》

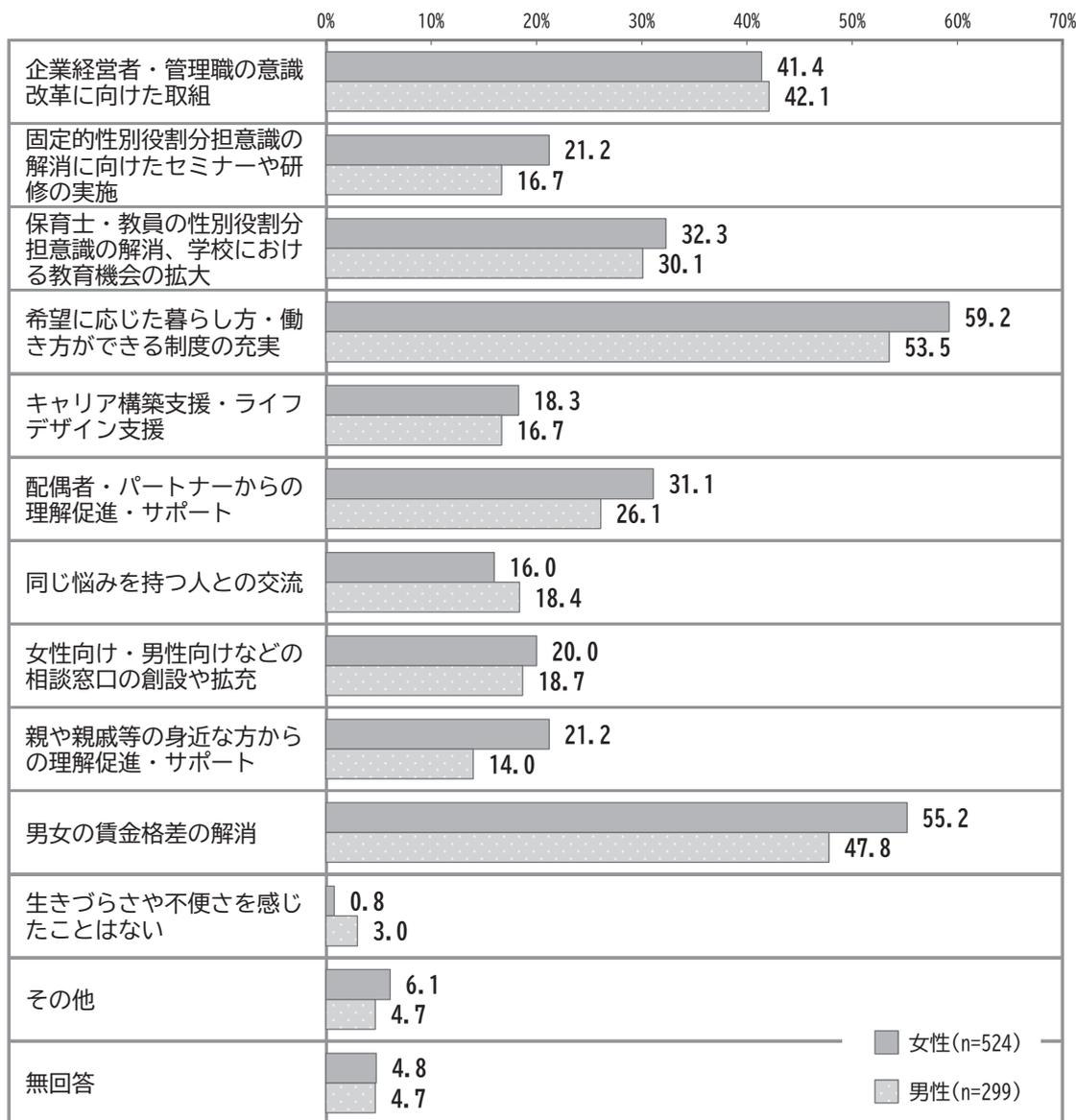
- ・年代別については回答者数が少ないため参考ではあるが、女性では 20 歳代で「女性はやさしい、かわいい、気が利くという考え」「デートで男性が多く負担したり女性をリードするべきという考え」「男性は結婚し家計を支えるのが当たり前という考え」「力仕事や危険な仕事は男の仕事という考え」「男性は定年までフルタイムで正社員で働くべきという考え」の割合が他層に比べて 10 ポイント以上高い。「家事、育児、介護は女性がするものだという考え」の割合は年代を問わず 7 割以上である。
- ・男性では、30 歳代で「男性が育児に関わりにくい環境」の割合が、40 歳代で「男性は育児休業・育児休暇を取得しにくい」「男性が弱音を吐いたり、悩みを打ち明けたりすることは恥ずかしいという考え」の割合が他層に比べて 10 ポイント以上高い。



(3) 性別による生きづらさ解消のために行政に望むこと

問 5-3 国・県・市町村がどのようなことをしていけば、性別による生きづらさを改善・解消できると思いますか。(〇はいくつでも)

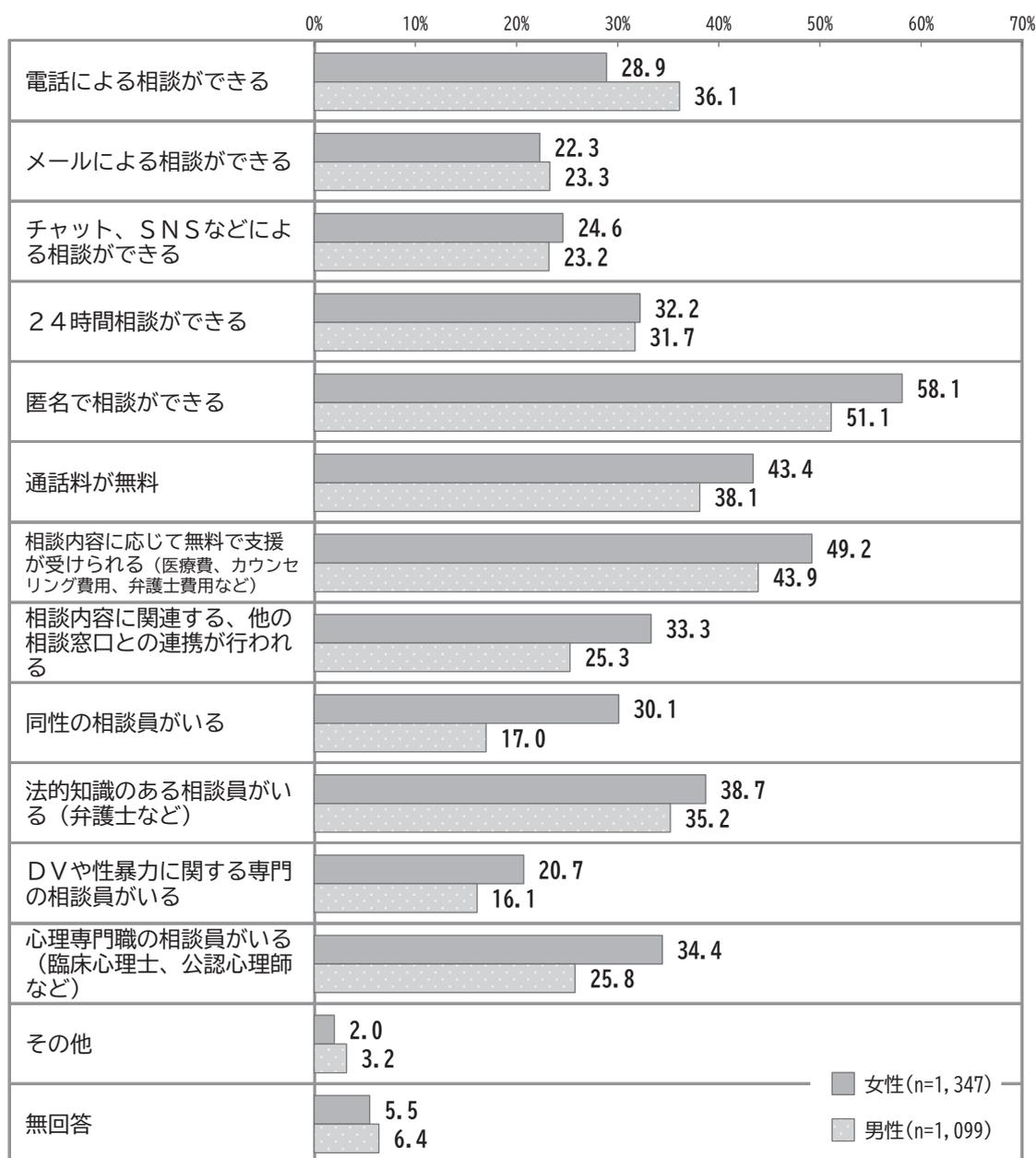
- 男女ともに「希望に応じた暮らし方・働き方ができる制度の充実」(女性 59.2%、男性 53.5%)の割合が最も高く、「男女の賃金格差の解消」(女性 55.2%、男性 47.8%)、「企業経営者・管理職の意識改革に向けた取組」(女性 41.4%、男性 42.1%)が続いている。
- 性別に比較すると、女性では「男女の賃金格差の解消」「親や親戚等の身近な方からの理解促進・サポート」「希望に応じた暮らし方・働き方ができる制度の充実」「配偶者・パートナーからの理解促進・サポート」の割合が男性に比べて5ポイント以上高い。



(4) 相談窓口で配慮してほしいこと

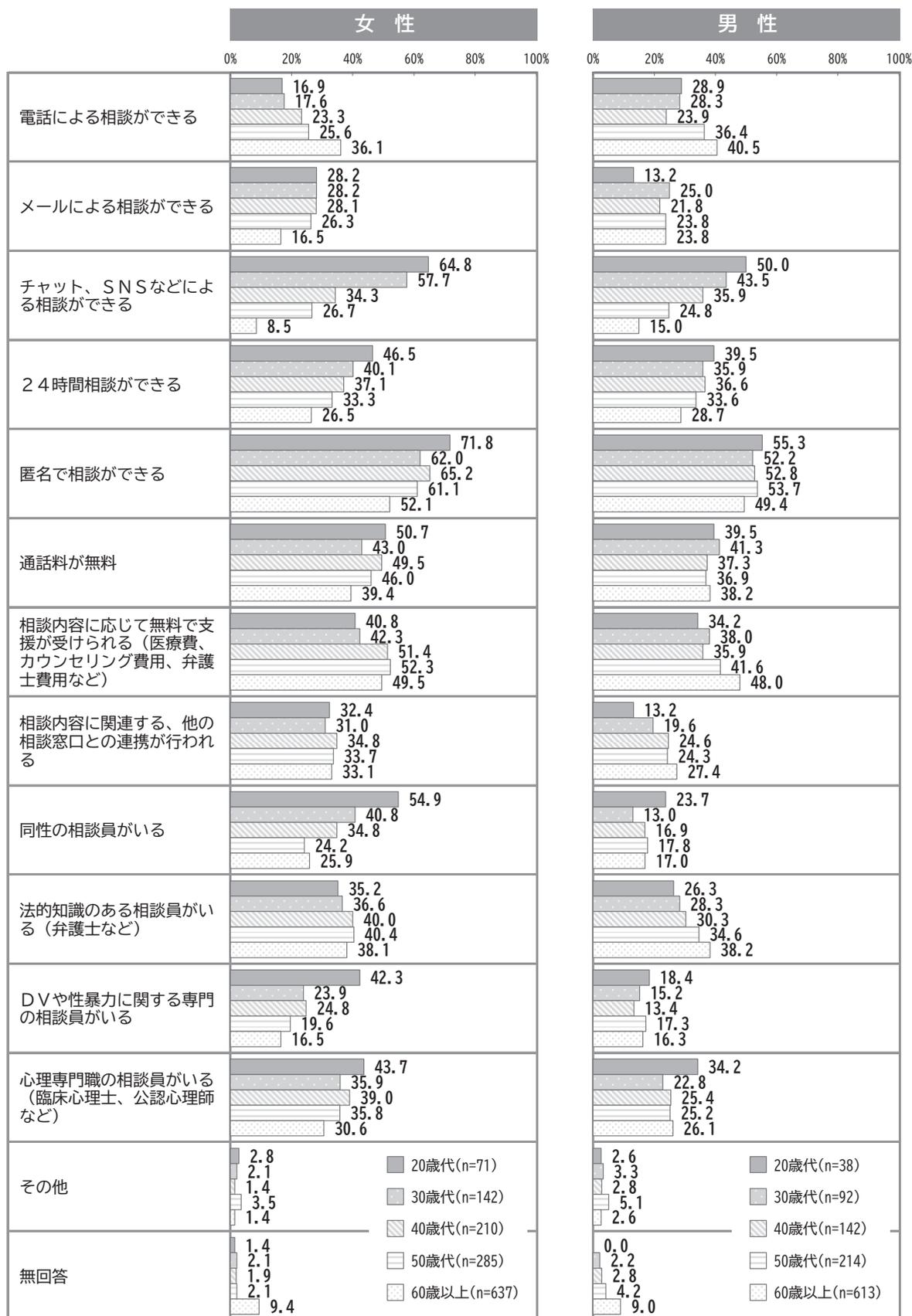
問 5-4 様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。
(〇はいくつでも)

- 男女ともに「匿名で相談ができる」(女性 58.1%、男性 51.1%)の割合が最も高く、「相談内容に応じて無料で支援が受けられる(医療費、カウンセリング費用、弁護士費用など)」(女性 49.2%、男性 43.9%)、「通話料が無料」(女性 43.4%、男性 38.1%)が続いている。
- 性別に比較すると、女性では「同性の相談員がいる」の割合が男性に比べて10ポイント以上高く、「心理専門職の相談員がいる(臨床心理士、公認心理師など)」「相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる」「匿名で相談ができる」「通話料が無料」「相談内容に応じて無料で支援が受けられる(医療費、カウンセリング費用、弁護士費用など)」の割合が5ポイント以上高い。男性では「電話による相談ができる」の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。



《年代》

- 年代別にみると、男女ともに概ね年代が若くなるほど「匿名で相談ができる」「チャット、SNSなどによる相談ができる」「24時間相談ができる」の割合が高く、概ね年代が高くなるほど「電話による相談ができる」の割合が高くなっている。
- 女性では、年代が若くなるほど「同性の相談員がいる」「DVや性暴力に関する専門の相談員がいる」「心理専門職の相談員がいる（臨床心理士、公認心理師など）」の割合が高い。

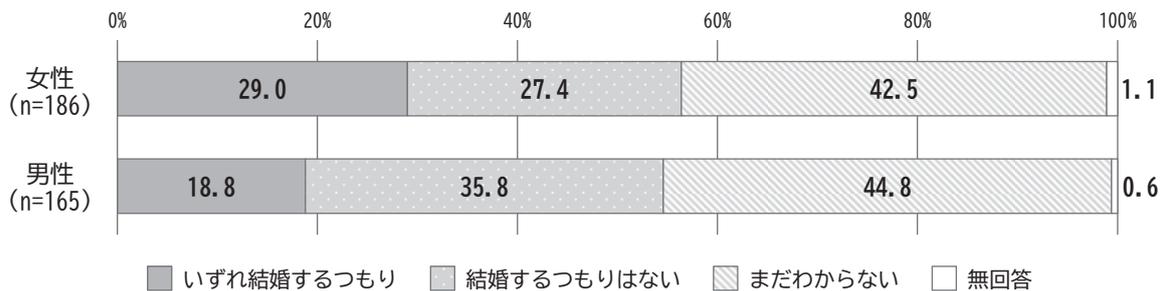


6. 結婚等に対する考え方について

(1) 結婚意向

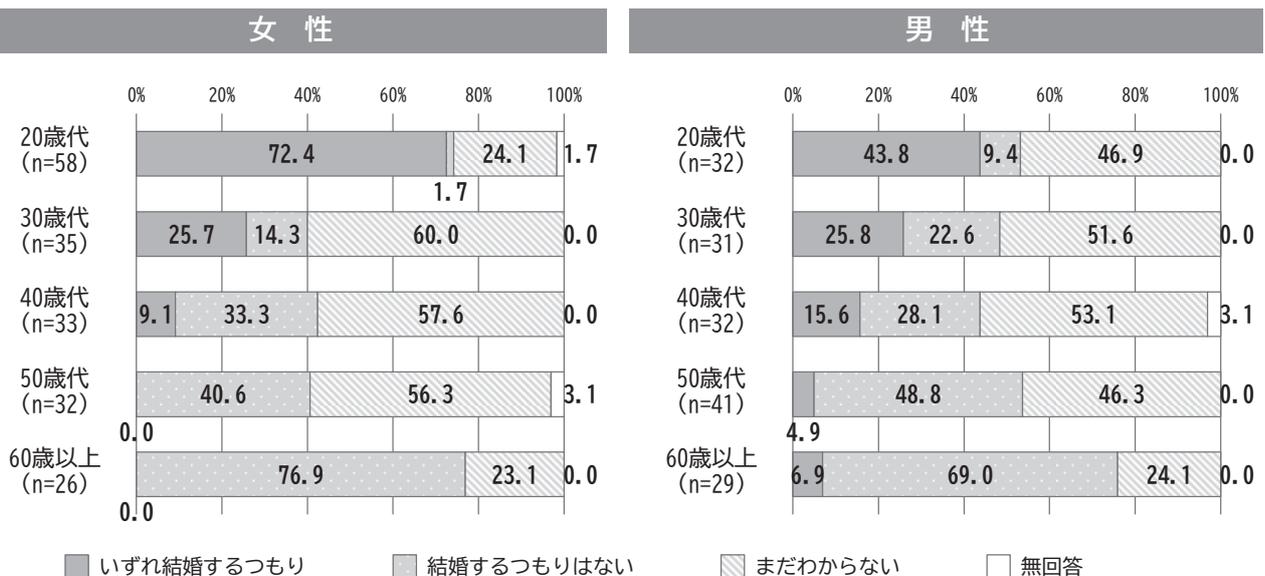
問 6-2 問 6-1 で「1. 未婚（一度も結婚したことがない）※婚約中の方を含む」と回答した方のみにお聞きします。
 今後結婚に関する意向はありますか。（○は1つ）

- 未婚女性では、「いずれ結婚するつもり」の割合が29.0%、「結婚するつもりはない」が27.4%、「まだわからない」が42.5%である。
- 未婚男性では、「いずれ結婚するつもり」の割合が18.8%、「結婚するつもりはない」が35.8%、「まだわからない」が44.8%である。
- 性別に比較すると、男性では「いずれ結婚するつもり」の割合が女性に比べて10ポイント以上低い。



《年代》

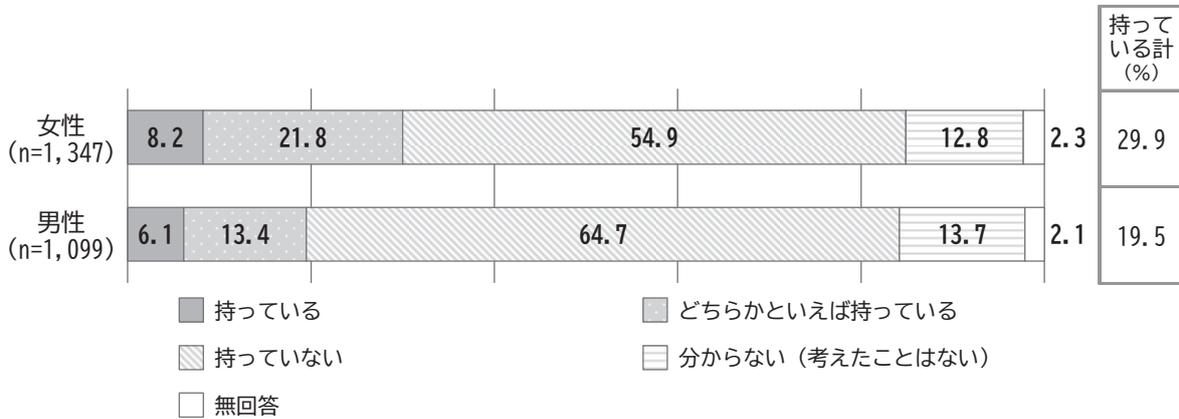
- 年代別にみると、男女ともに「いずれ結婚するつもり」の割合は20歳代で最も高く、女性で72.4%、男性で43.8%である。30歳代で「いずれ結婚するつもり」の割合は女性で40ポイント以上、男性で10ポイント以上低下する。
- 性別に比較すると、20歳代男性の「いずれ結婚するつもり」の割合は女性に比べて20ポイント以上低い。



(2) 結婚に対するマイナスイメージ

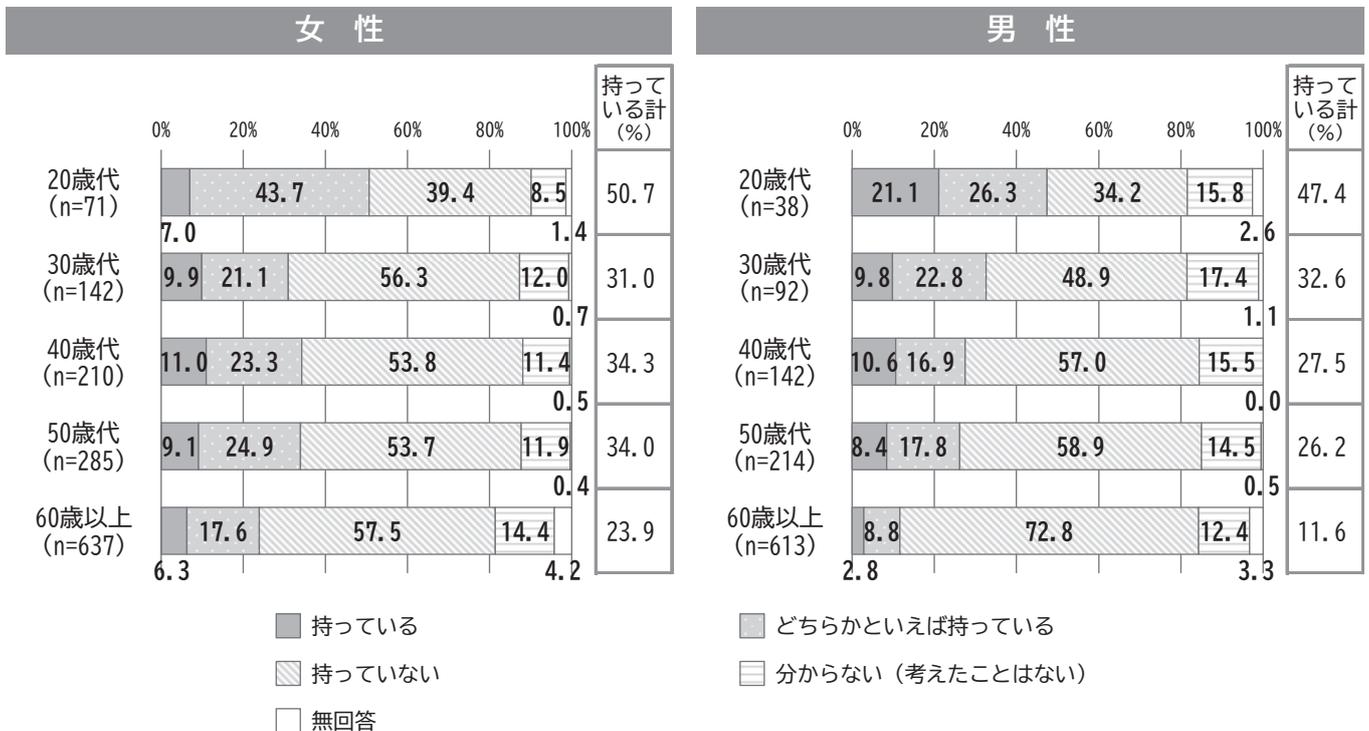
問 6-3 現在、結婚等について不安やマイナスのイメージは持っていますか？ (○は1つ)

- 女性では、「持っている」(8.2%)、「どちらかといえば持っている」(21.8%)をあわせたマイナスイメージを持っている計は29.9%である。
- 男性では、「持っている」(6.1%)、「どちらかといえば持っている」(13.4%)をあわせたマイナスイメージを持っている計は19.5%である。
- 性別に比較すると、女性のマイナスイメージを持っている計は男性に比べて10ポイント以上高い。



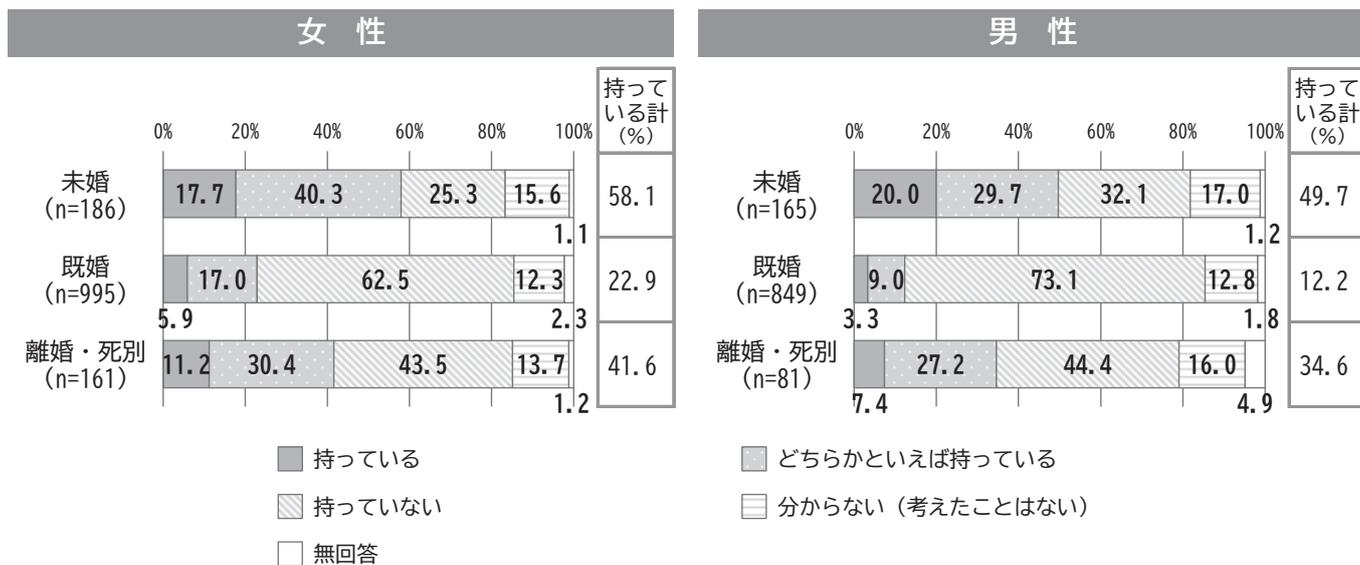
《年代》

- 年代別にみると、男女ともに概ね年代が若くなるほどマイナスイメージを持っている計が高く、20歳代女性で50.7%、20歳代男性で47.4%である。
- 性別にマイナスイメージを持っている計を比較すると、40歳代以上女性の割合が同年代の男性に比べて5ポイント以上高い。



《未既婚》

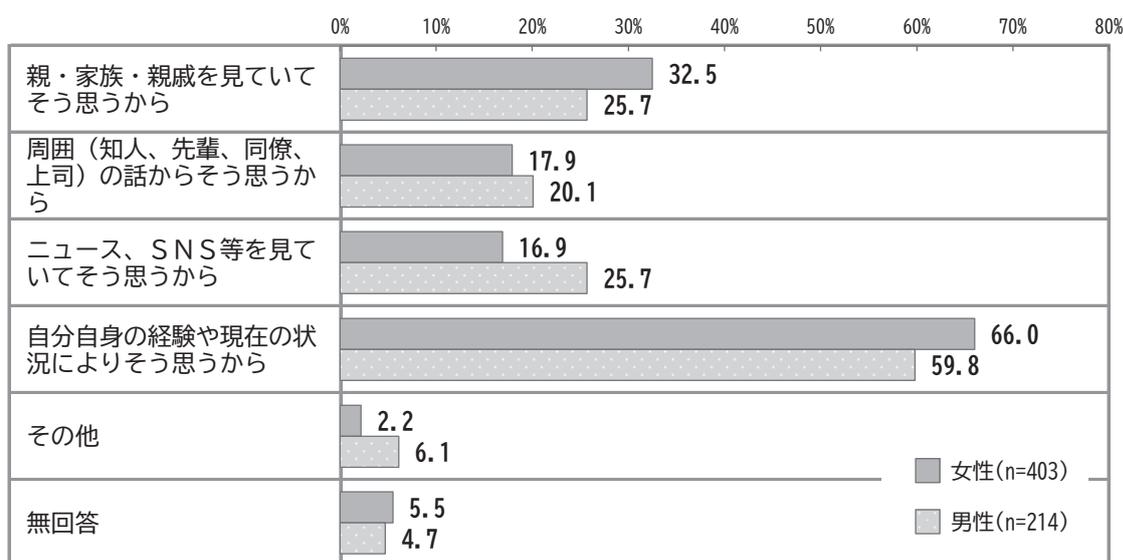
- 未既婚別に比較すると、男女ともに未婚者でマイナスイメージを持っている計が既婚者より 30 ポイント以上高くなっている。



(3) マイナスイメージがある理由

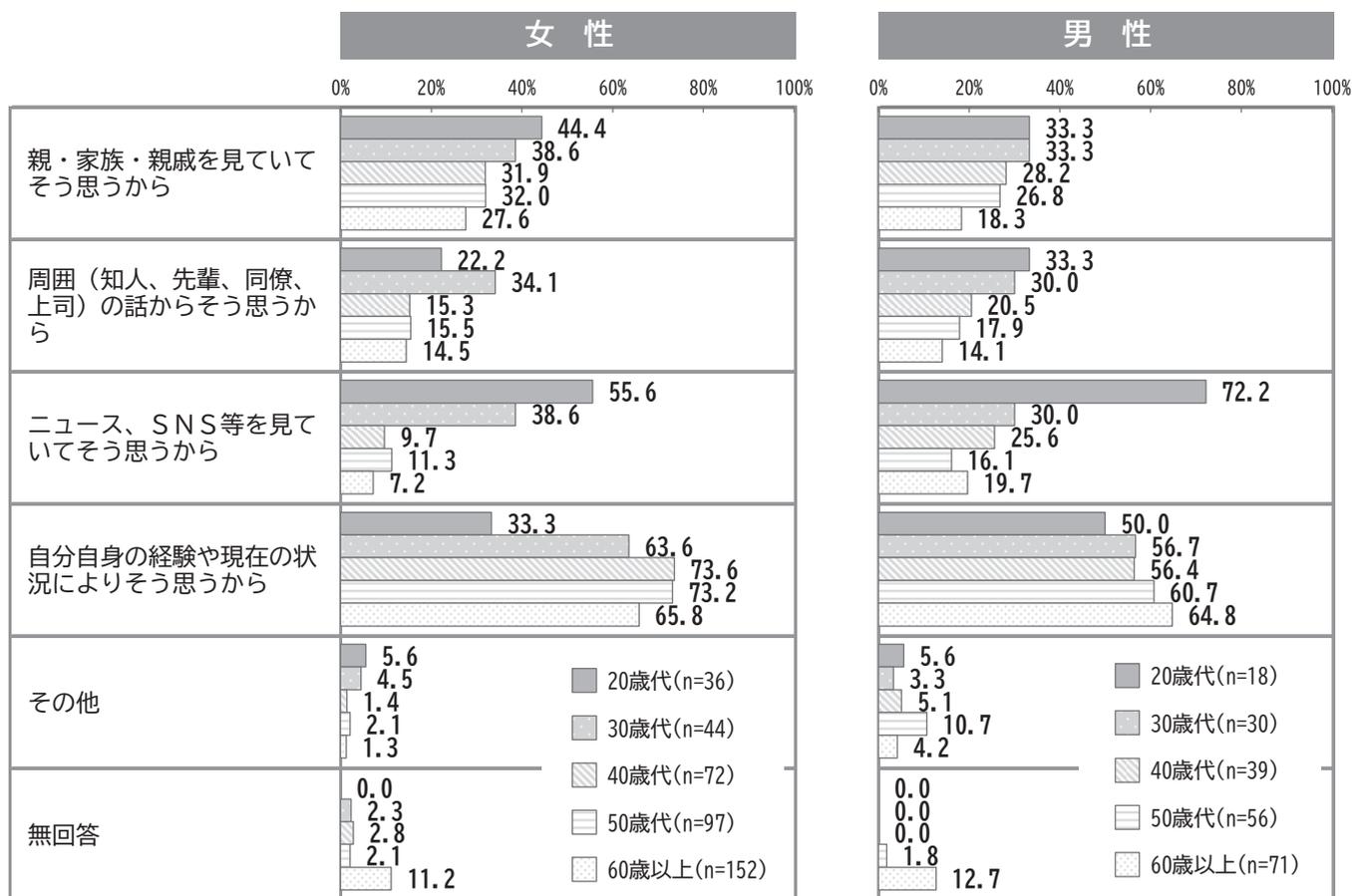
問6-4 問6-3で「1. 持っている」または「2. どちらかと言えば持っている」と回答した方のみにお聞きします。
 なぜ上記のようなマイナスのイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)

- 女性では、「自分自身の経験や現在の状況によりそう思うから」の割合が66.0%で最も高く、「親・家族・親戚を見ていてそう思うから」(32.5%)、「周囲(知人、先輩、同僚、上司)の話からそう思うから」(17.9%)が続いている。
- 男性では、「自分自身の経験や現在の状況によりそう思うから」の割合が59.8%で最も高く、「親・家族・親戚を見ていてそう思うから」「ニュース、SNS等を見ていてそう思うから」(ともに25.7%)が続いている。
- 性別に比較すると、女性では「親・家族・親戚を見ていてそう思うから」「自分自身の経験や現在の状況によりそう思うから」の割合が男性に比べて5ポイント以上高く、男性では「ニュース、SNS等を見ていてそう思うから」の割合が女性に比べて5ポイント以上高い。



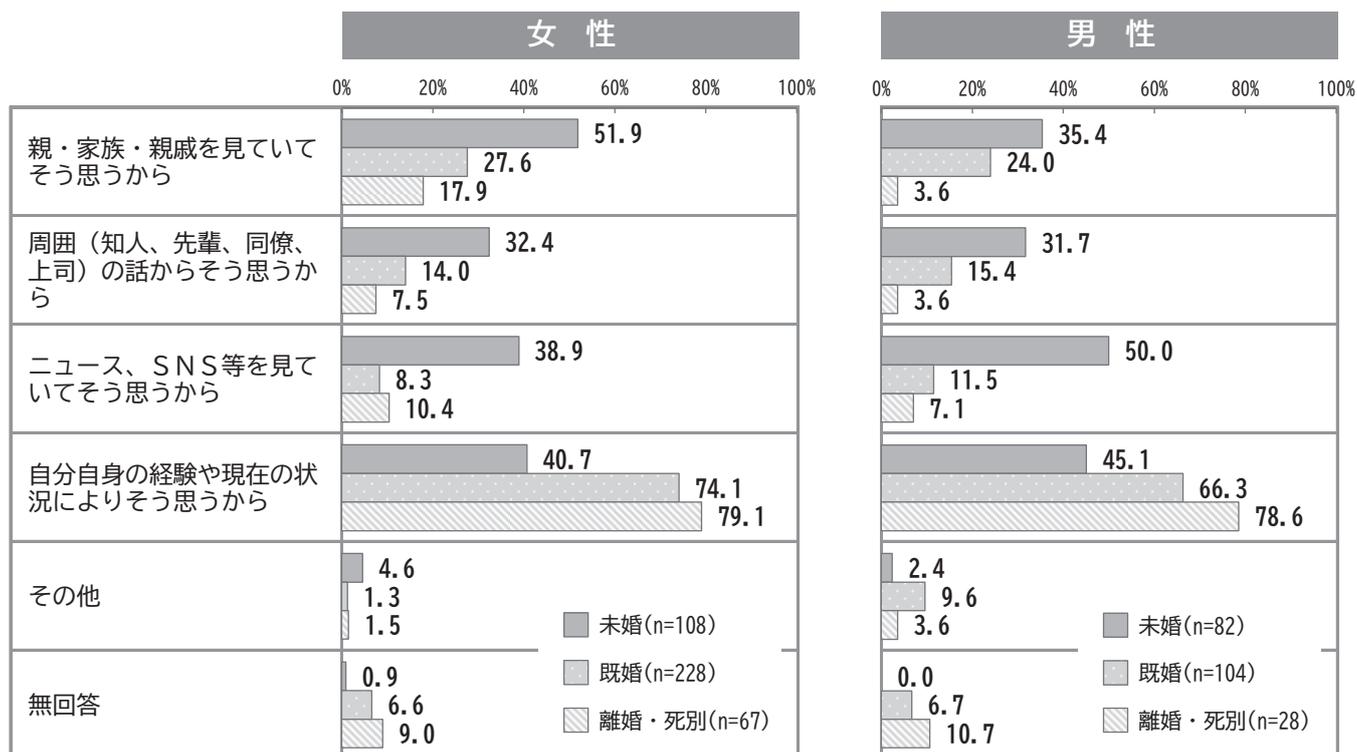
《年代》

- 年代別にみると、男女ともに概ね年代が若くなるほど「ニュース、SNS等を見ていてそう思うから」「親・家族・親戚を見ていてそう思うから」の割合が高く、年代が高くなるほど「自分自身の経験や現在の状況によりそう思うから」の割合が高くなっている。
- 男性では概ね年代が若くなるほど「周囲（知人、先輩、同僚、上司）の話からそう思うから」の割合が高くなっている。



《未既婚》

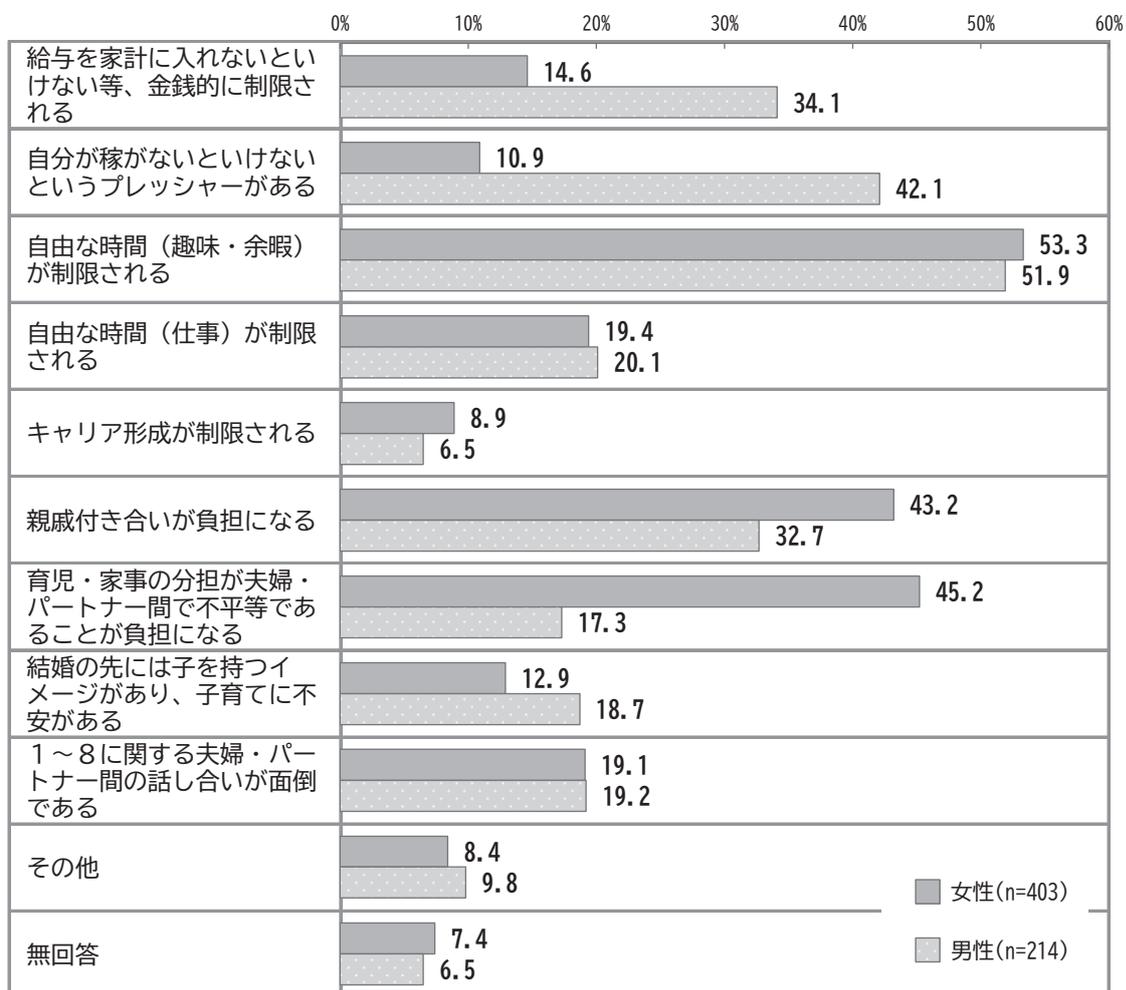
- 未既婚別にみると、未婚女性では「親・家族・親戚を見ていてそう思うから」が51.9%で最も高く、「自分自身の経験や現在の状況によりそう思うから」(40.7%)、「ニュース、SNS等を見ていてそう思うから」(38.9%)が続いている。
- 未婚男性では、「ニュース、SNS等を見ていてそう思うから」が50.0%で最も高く、「自分自身の経験や現在の状況によりそう思うから」(45.1%)、「親・家族・親戚を見ていてそう思うから」(35.4%)が続いている。
- 性別に比較すると、未婚女性は「親・家族・親戚を見ていてそう思うから」の割合が未婚男性に比べて10ポイント以上高く、未婚男性は「ニュース、SNS等を見ていてそう思うから」の割合が未婚女性に比べて10ポイント以上高い。



(4) 具体的なマイナスイメージ

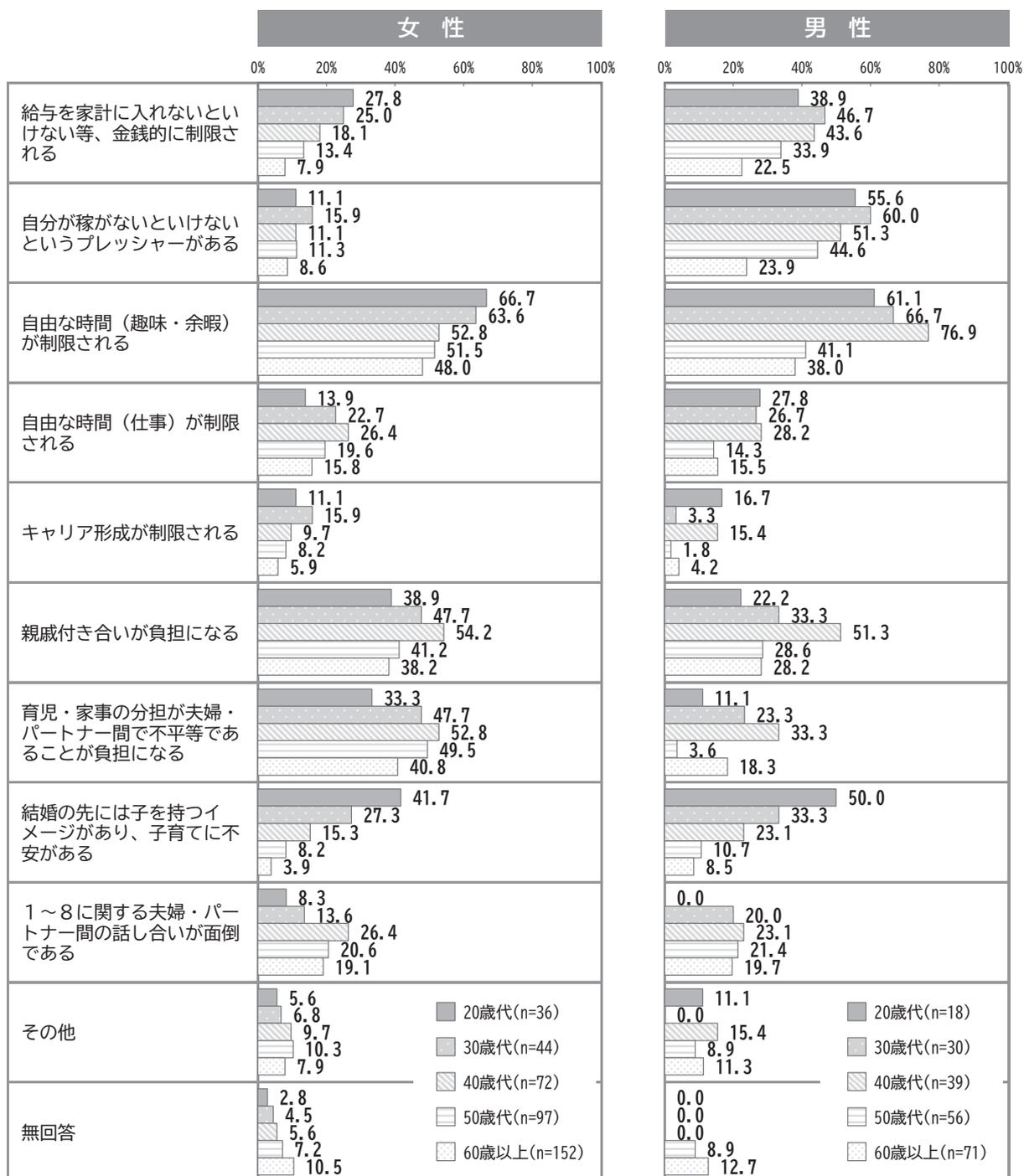
問 6-5 問 6-3 で「1. 持っている」または「2. どちらかと言えば持っている」と回答した方のみにお聞きします。
結婚に対して感じるマイナスのイメージについて具体的にお聞かせください。(〇はいくつでも)

- 女性では、「自由な時間（趣味・余暇）が制限される」の割合が 53.3% で最も高く、「育児・家事の分担が夫婦・パートナー間で不平等であることが負担になる」(45.2%)、「親戚付き合いが負担になる」(43.2%) が続いている。
- 男性では、「自由な時間（趣味・余暇）が制限される」の割合が 51.9% で最も高く、「自分が稼がないといけないというプレッシャーがある」(42.1%)、「給与を家計に入れないといけない等、金銭的に制限される」(34.1%) が続いている。
- 性別に比較すると、女性では「育児・家事の分担が夫婦・パートナー間で不平等であることが負担になる」の割合が男性に比べて 20 ポイント以上高く、「親戚付き合いが負担になる」が 10 ポイント以上高い。男性では、「自分が稼がないといけないというプレッシャーがある」の割合が女性に比べて 30 ポイント以上高く、「給与を家計に入れないといけない等、金銭的に制限される」の割合が 10 ポイント以上高い。



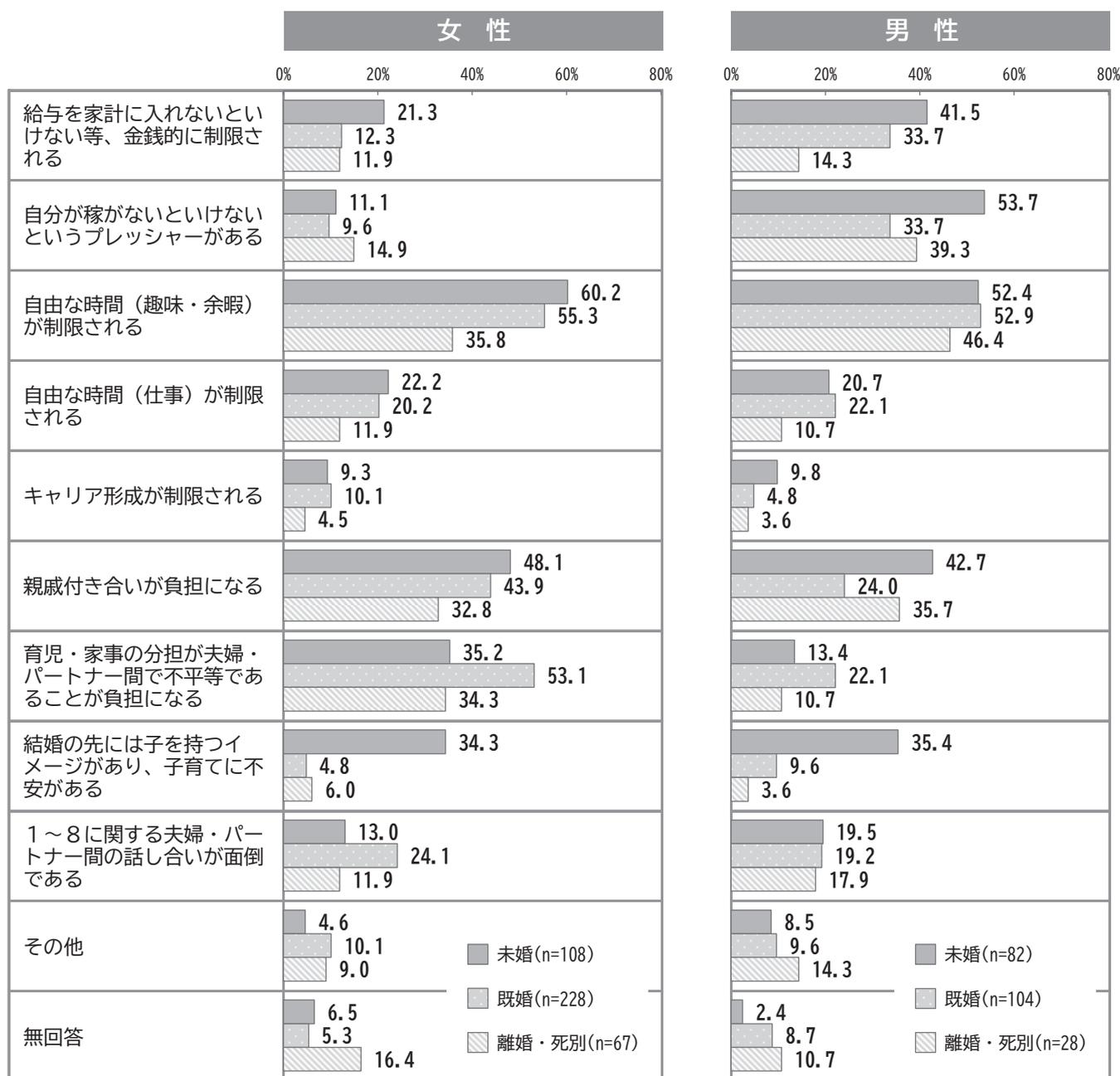
《年代》

- 年代別にみると、男女ともに概ね年代が若くなるほど「結婚の先には子を持つイメージがあり、子育てに不安がある」「給与を家計に入れないといけない等、金銭的に制限される」の割合が高くなっている。
- 女性では概ね年代が若くなるほど「自由な時間（趣味・余暇）が制限される」の割合が高くなっている。
- 男性では概ね年代が若くなるほど「自分が稼がないといけないというプレッシャーがある」の割合が高くなっている。



《未既婚》

- 未既婚別にみると、未婚女性では「自由な時間（趣味・余暇）が制限される」が60.2%で最も高く、「親戚付き合いが負担になる」（48.1%）、「育児・家事の分担が夫婦・パートナー間で不平等であることが負担になる」（35.2%）が続いている。
- 未婚男性では、「自分が稼がないといけないというプレッシャーがある」が53.7%で最も高く、「自由な時間（趣味・余暇）が制限される」（52.4%）、「親戚付き合いが負担になる」（42.7%）が続いている。
- 未婚者と既婚者とを比較すると、男女ともに未婚者は「結婚の先には子を持つイメージがあり、子育てに不安がある」の割合が既婚者に比べて20ポイント以上高い。
- 性別に比較すると、未婚女性は「育児・家事の分担が夫婦・パートナー間で不平等であることが負担になる」の割合が未婚男性に比べて20ポイント以上高い。未婚男性は「自分が稼がないといけないというプレッシャーがある」「給与を家計に入れないといけない等、金銭的に制限される」の割合が未婚女性に比べて20ポイント以上高い。



7. 自由記述意見

番号	項目	件数	主な意見	女性	男性	その他	無回答	計
1	家庭と仕事の両立について	28	家事分担や男性の育児休暇を取得しやすい環境を作ることが必要	10	2	0	0	12
2			周囲の支援や家事・子育て支援が必要	4	2	0	0	6
3			家庭における女性側の負担が大きい	2	1	0	1	4
4			子供を預けて仕事ができる環境が必要	2	1	0	0	3
5			男性の家事・子育て参加が進んでいる	1	1	0	0	2
6			その他	1	0	0	0	1
7	女性登用に ついて	36	男女で給料・昇給の格差があることが問題	5	7	0	0	12
8			女性の雇用機会の創出が重要	3	4	0	0	7
9			国や会社における女性のリーダーが少ない	2	1	0	0	3
10			女性管理職を増やす仕組みを作る	0	3	0	0	3
11			育児休暇から復帰しやすい環境、子供の急病でも休み易い環境が重要	1	1	0	0	2
12			その他	4	5	0	0	9
13	企業・職場の意識について	20	それぞれの個性を尊重し協力できる職場や社会であってほしい	4	2	0	0	6
14			経営者や教員を対象にした意識改革が必要	2	2	0	1	5
15			企業を対象にジェンダーに関するセミナーを実施するとよい	1	1	0	0	2
16			企業の意識が遅れている	1	0	0	0	1
17			職場での意識は改善されつつある	1	0	0	0	1
18			その他	3	0	1	1	5
19	社会の意識について	118	男女関係なく個人の意見や思想が尊重される社会が望ましい	41	20	0	0	61
20			近頃はジェンダーに関する考え方が変わりつつある	5	3	0	0	8
21			男女で仕事や家庭での役割が違うことは悪いことではない	0	7	0	0	7
22			時代の変化を感じているが、対応しづらいと感じている	2	3	0	0	5
23			女らしさ男らしさを理解し、その特性を活かしたらい	4	1	0	0	5
24			年配者はジェンダーに関する意識が薄い	4	1	0	0	5
25			性別の制服着用などの環境がジェンダーギャップを植え付けていると思う	1	2	0	0	3
26			田舎は保守的な考えが残っている	1	2	0	0	3
27			奈良県はジェンダーギャップに関する意識が薄い	2	1	0	0	3
28			その他	11	7	0	0	18
29	意識啓発について	74	学校など教育現場でのジェンダー教育に力を入れるとよいのではないか	14	15	0	0	29
30			ジェンダーに関する意識改革(セミナーやイベント等)が必要である	7	7	0	0	14
31			年配者を対象にした意識改革(講習・研修・セミナーなど)が必要である	5	3	0	0	8
32			ジェンダーに関する意識改革が必要だが、時間がかかると思う	3	1	1	0	5
33			家庭でジェンダー教育を行うことが必要	4	1	0	0	5
34			ジェンダーに関する教育方針について議論することが必要	1	1	0	0	2
35			日本のジェンダー教育の方向性は間違っていると思う	2	0	0	0	2
36			その他	7	2	0	0	9
37	行政へのご意見	184	ジェンダーギャップ対策を推進してほしい	13	9	0	0	22
38			ジェンダーギャップ施策は慎重に進めるべきだ	8	12	0	0	20
39			ジェンダーギャップ施策の方向性が間違っている	4	9	0	1	14
40			ジェンダーギャップのない社会づくりは難しいと思う	5	4	1	0	10
41			相談窓口の設立や情報提供など広報を強化することが重要	6	3	0	0	9
42			ジェンダーレス対策に反対・不安がある	4	3	0	0	7
43			行政もジェンダーに対する勉強や理解が足りない	3	1	1	0	5
44			政治・議会の女性役員を増やす仕組みが必要	3	1	0	0	4
45			気軽に相談出来る仕組みがあるといい	2	1	0	0	3
46			同性婚を認めるべき	2	0	0	0	2
47			ひとり親家庭へのサポートや子育て支援に関するご意見・ご要望	7	1	0	0	8
48			ジェンダーギャップ施策に対するその他ご意見	6	5	0	0	11
49			よりよい社会になってほしい	7	7	0	0	14
50			その他、行政へのご意見・ご要望	21	32	1	1	55
51	アンケートについて	27	質問内容を改善したほうがいい	5	5	1	0	11
52			年配者には答えづらい、若い人に回答を求めるべき	4	3	0	1	8
53			アンケート調査実施へのお礼	3	0	0	0	3
54			その他	2	3	0	0	5
55	その他	18	その他ご意見・ご要望	8	10	0	0	18

